

# 年末開催！明日へ歩む「奈奈子祭」

テレビ番組をきっかけに、東日本大震災で取りやめになっていた郷土芸能が、新たな祭りとして復活しました。その名は「奈奈子祭」。人々を元気づける郷土芸能祭に、皆さんも参加してみませんか？



奈奈子さんの実家で開かれた第1回奈奈子祭

▶左から橋本教授、笹山奈奈子さん、政幸さん

## 芸能祭をすぐに実行しよう

新春を迎えると、岩手県普代村の鶴鳥神楽は、権現様と呼ばれる獅子頭を捧持して、久慈市から釜石市の家々を巡る。お札を配って権現舞を舞い、夜には「宿」と呼ばれる大きな民家や公民館で本格的な神楽を演じてきた。

ところが、東日本大震災後の津波で、沿岸部にあった宿の大半が失われてしまった。

当時、盛岡大学に勤務し、岩手県文化財保護審議会委員を務めていた橋本裕之教授（現在は追手門学院大学）は、震災直後から、被災した団体と支援団体をつなぐ役割を果たしてきた。

2013年の1月13日、NHK総合テレビで「復興サポーター 地域の心をつなぎたい」岩手・釜石市」が放送され、被

災して地元を離れた住民を郷土芸能で呼び戻せないかが話し合われた。フアシリテーターの橋本教授は旧知の笹山政幸・奈奈子夫妻にも出演を依頼した。収録中、ここに集まった団体で数年後に郷土芸能祭ができればいいなという話が出ると、「数年後ではなく、即実行しよう」と奈奈子さんが爆弾発言をした。奈奈子祭の始まりである。

## 鶴鳥神楽の「宿」の再開から

笹山夫妻自身、被災して仮設住宅に住んでいた。釜石市箱崎町白浜にある奈奈子さんの実家は鶴鳥神楽の宿を務めていて、建物はほぼ無事だったが、宿は開けなかった。笹山夫妻は宿を再開し、地元を離れている人々に帰ってきてもらおう契機にした。震災前、鶴鳥神楽の調査報告



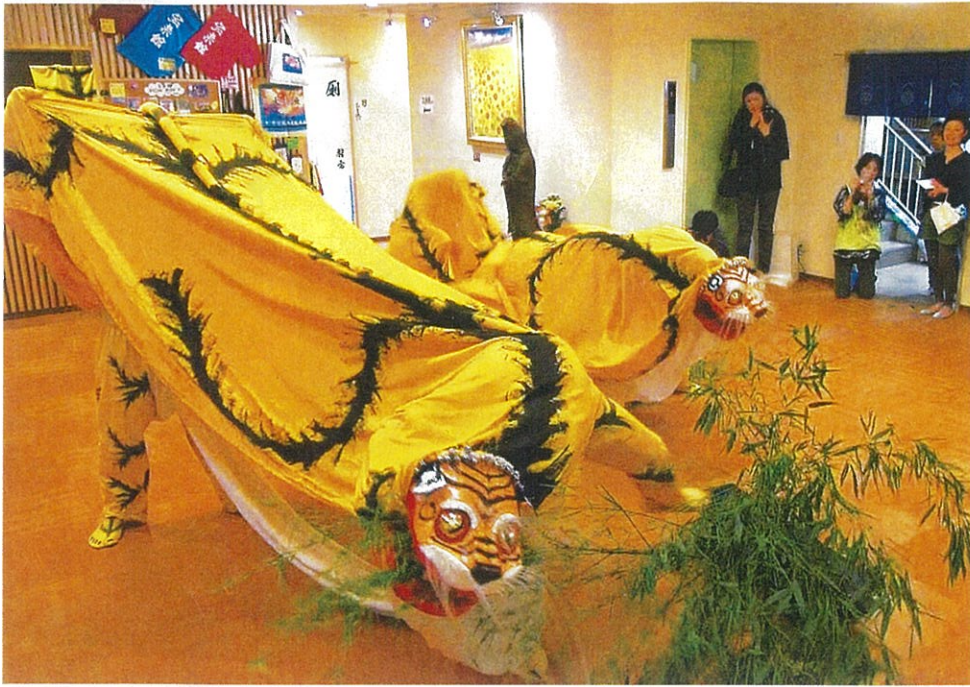
第2回・3回ではワークショップや稽古体験も行われた



第3回奈奈子祭 鶴鳥神楽の「恵比須舞」



第3回奈奈子祭 岳神楽の「天女の舞」



第2回奈奈子祭 尾崎青友会の虎舞

## 「奈奈子祭～花の陣～」

2014年12月21日(日)

三陸復興国立公園  
「三陸花ホテルはまぎく」

【住所】岩手県大槌町浪板海岸  
【交通】JR釜石線釜石駅から車で約20分  
【出演・内容】チンドン寺町一座／長安寺太鼓／神ノ沢鹿踊／陸中弁天虎舞／鶴鳥神楽／南部藩壽松院年行事支配太神楽／岳神楽／雁舞道七福神  
【入場料】無料  
【問合せ】☎090-4711-9567(奈奈子祭実行委員会・橋本)



橋本教授たちは、個人宅という宿の雰囲気を生かして、演者と観客が同じ平面上で交流する場をめざした。奈奈子祭における本場の主役は、すばらしい郷土芸能よりも、それに惹かれて集まり、笑って泣いて一時をす

## ■ツアーも募集中!

JTBでは奈奈子祭を訪ねる1泊2日のツアーへの参加者を募集中です。新幹線または空路で花巻へ。そこからバスで大槌町へ向かいます。バスの車中での橋本教授によるレクチャー、大槌町内の見学や地元の方との交流会、海産物の買出しなど、内容は盛りだくさん。詳細は下記へお問い合わせください。

【「郷土芸能の絆で元気に!」大槌のころにふれる旅(奈奈子祭・花の陣)」  
株式会社JTBコーポレートセールス ☎03-6737-9410  
「JTBボランティア大槌」で検索、または  
www.jtb.co.jp/tabbeat/volunteer/から申込み

ごす地元の人たちだ。15名のツアー参加者には、地元の人々が郷土芸能を楽しむ場をこそ見てもらいたいと考え、会場では最前列に陣取ったりしないで、中程や後方に座って見てほしいと話した。

「奈奈子祭」は約200人が集まり、大成功を収めた。昨年7月には第2回が釜石市鶴住居町で、12月には第3回が大槌町で開催され、ともに第1回をしのぐ人が集まった。

そして今年の12月21日、1年ぶりに「奈奈子祭～花の陣～」が大槌町の三陸花ホテルはまぎくで開催される。ツアーの募集も始まった。

## 読者の声

▼11月号の本コーナーを読み、被災の思いが東京駅の瓦に使用されていることに感動しました。これからも伝統技術を活かして皆様に頑張ってもらいたいと思います。福島県、Nさん、女性

▼皆さんの震災、復興に関するメッセージを読み、より一層、復興に対する思いが増しました。(大阪府、Hさん、女性)

▼11月号の「復興住宅」の記事で、熊谷さんの建築の力で地域を変え、挑戦に感動しました。(神奈川県、Kさん、男性)

## 「元気になる日本」は1月号から新しくなります!

本コーナーでは、幾多の災害からの復興に向け、旅を通じてできることをご紹介してまいりました。新年からは更に、地元で活力を生み出そうと取り組んでいる地域づくりの取り組みなども、積極的に紹介してまいります。復興、地域再生に向けた取組みをご紹介してまいりますので、引き続きお声をお寄せ下さい。旅した感想や写真などお待ちしております。メール、FAX、手書きの原稿、本誌アンケート(117ページ)など、方法は何でも結構ですので、下記までお寄せください。

### ■投稿、情報の送付先

JTBパブリッシング/ジュール事業部「元気になる日本」係宛

〈送付方法〉郵便 〒162-8446 東京都新宿区弘方町25-5

FAX 03-6888-7839

メール nodule-edit@rurubu.ne.jp